

＜教科に関する調査（全国との数値の比較から）＞

平均正答率	設問に対する状況等
小学校 国語・算数 「ほぼ同じ」 中学校 国語 「やや下回る」 数学 「ほぼ同じ」 英語 「下回る」	小学校 ・「知識・技能」「思考・判断・表現」のバランスがよい ・記述式解答の正答率が高い、無答率が全国を下回る 中学校 ・「思考・判断・表現」に関わる記述式が弱い（国・英） ・無答率が全国を上回る（国・数・英） ・数学の正答分布が「3つの集団」に

＜教科の調査で課題となること＞

- 国語**: 複数の情報を整理して自分の考えが伝わるように「書くこと」（小）
読み手に立って叙述を整える「書くこと」や文章の構成や展開を考えて「読むこと」（中）
- 算数**: 割合、データ活用の知識・理解面、「変化と関係」で比例を用いた数量の求め方の記述（小）
- 数学**: 平面の定義の理解、「数と式」「図形」で論理的に考え証明すること（中）
- 英語**: 文章を読んで概要をとらえること、相手に伝える内容をまとまりのある文章で書くこと（中）

＜学習意欲、学習環境等に関する調査（児童生徒）＞（％は四捨五入）

- 高い自己肯定感（肯定的回答 小85％・中79％）と将来への夢や希望（肯定的回答 小85％・中66％）
- 普通の生活の中で幸せな気持ちになることがある・時々ある（小92％・中86％）
- 計画的に学習するが、学習時間は「1時間以上、2時間未満」が小中ともに最多（小34％・中38％）
- 読書好き（小80％・中73％）だが、一日当たり時間で「全くしない」読書離れも（小24％・中29％）
- 積極的な地域行事参加（小81％・中48％）と高い地域貢献への意識（肯定的回答 小81％・中68％）
- 外国の人や文化への高い関心（肯定的回答 小73％・中67％）
- ICT機器活用は高まった（毎日使う 小20％・中9％）が、全国とは開き（小28％・中28％）
- 総合学習で、課題、情報収集や整理、発表などの学習活動の取り入れ（肯定的回答 小71％・中70％）

＜改善の方向Ⅰ 教科学習＞

- 国語**: ①目的や意図、情報の整理、伝える相手などを明確にした「書くこと」 ②観点をもとに特徴や工夫に着目し効果を考え合う「読むこと」 ③豊かな語彙や文章の要約による読解力の育成
- 算数・数学**: ①身の回りの数学的事象の教材化と実感的な理解 ②数学的に説明したり表現したりする活動の充実 ③筋道立てて論理に考え表現する力の重視
- 英語**: ①コミュニケーション活動を通じた語彙や文法の力の育成 ②必要な情報や概要をとらえた「読むこと」 ③「話すこと」の評価としてのパフォーマンステストの評価内容や基準

＜改善の方向Ⅱ 学校生活全体として＞

- ①互いに認め合う人間関係、学級集団づくり
- ②多様な子どもの主体的な学びを支える（個に応じた指導、探究的な学習）
- ③自分の考えを書き表したり伝え合ったりする活動を通じた、思考力・判断力・表現力の育成
- ④個別最適な学び、協働的な学びを視点にしたICT機器の活用
- ⑤子どもへの向き合い、深い教材研究から学びの質の向上へ
- ⑥規則正しい生活習慣の確立

- ①自校での分析と情報共有、取組の明確化
- ②校長会で実践例や案を持ち寄り、具体を協議
- ③中学校区教育推進委員会、中学校研究主任会による小中、中学校間連携
- ④パイロット校研究（英語）、英語教育推進委員会の設置
- ⑤「学校だより」等を通じた保護者への理解と協力

＜今後の学力向上・授業改善に向けて＞